台湾映画コーディネーター

江口洋子さんスペシャルセレクト特別上映！

日本劇場未公開の傑作台湾映画を江口さんが買付・特別公開するシリーズです！

High Flash 引火点

引爆点 High Flash

環境汚染と腐敗政治に翻弄される庶民と、その闇に果敢に挑む法医学者と検事を描いた社会派ミステリー。環境汚染に苦しむ高雄の小さな漁村で、漁民たちの抗議行動の最中に焼身自殺体を発見。遺体には青く光る弩銭が…。解剖を担当した法医学者と事件を担当する検察官が調べていくうち、驚くべき真相が露呈していく。プロデューサーはシルヴィア・チャン。

監督：ジャン・ジンシュン　協作総指揮：シルヴィア・チャン　脚本：ワン・リーウェン
出演：ウー・カンレン／ヤオ・イーティー／チェン・イーウェン／イン・シン／シュー・シーファン
（2018／台湾／1h54）

よい子の殺人犯

最乖巧的殺人犯 The Magnificent Bobita

アニメオタクと貧困家庭や孤独、引きこもりなどの社会問題も盛り込んだ作品。母親と認知症の祖父と暮らすアニメオタクでニートの阿雨は、マニア仲間の女の子に恋をする。彼女が欲しがるレアなグッズを買うためにバイトを始め、祖父の預金をこっそり借りて購入。彼女との甘い夢が実現しようとした矢先、思いも寄らないことが起こる。そして、家庭ではとんでもないことが…。

監督：ジャン・ジンシュン　脚本：ワン・リーウェン／リャオ・ボーミン
出演：ホアン・ハー／ワン・チェンリン
（2018／台湾／1h20）

上映スケジュール

	10/15（金）	10/16（土）	10/17（日）	10/18（月）	10/19（火）	10/20（水）	10/21（木）
日中	風櫃の少年	風が踊る	冬冬の夏休み	坊やの人形	風が踊る	冬冬の夏休み	風が踊る
夜	冬冬の夏休み	坊やの人形	風が踊る	風が踊る	冬冬の夏休み	風が踊る	風櫃の少年

	10/22（金）	10/23（土）	10/24（日）	10/25（月）	10/26（火）	10/27（水）	10/28（木）
日中	軍中楽園	バナナパラダイス	High Flash 引火点	台北ストーリー	軍中楽園	よい子の殺人犯	バナナパラダイス
夜	台北ストーリー	よい子の殺人犯	軍中楽園	バナナパラダイス	台北ストーリー	バナナパラダイス	High Flash 引火点

	10/29（金）	10/30（土）	10/31（日）	11/1（月）	11/2（火）	11/3（水）	11/4（木）
日中	フラワーズ・オブ・シャンハイ	童年往事	フラワーズ・オブ・シャンハイ	童年往事	フラワーズ・オブ・シャンハイ	-	-
夜	-	-	-	-	-	童年往事	フラワーズ・オブ・シャンハイ

相互協力イベント

■10/16（土）・17（日）

サンモール一番町商店街で開催
台湾発見！知る観る体験する2日間！「Discover Taiwan 2021 in 仙台」
https://discover-taiwan.jp

■10/24（日）

精読的映画講座 濱口竜介×T『悲情城市』
@せんだいメディアテーク
https://sites.google.com/view/makunohito

フォーラム仙台　宮城県仙台市青葉区木町通2-1-33　TEL：022-728-7866　地下鉄南北線北四番丁駅 北2出口 徒歩3分

Taiwan Film festival

台湾映画祭2021

ホウ・シャオシェン作品を中心とした名作特集

in フォーラム仙台

風が踊る

風兒踏踏踏 Cheerful Wind

〈デジタルリマスター版〉
ホウ・シャオシェンが世界に羽ばたく直前の瑞々しい佳作！

CM撮影で恋潤島を訪れたカメラマンのシンホエは、事故で視力を失った青年チンタイと知り合う。その後、台北で二人(偶然は再会するが…、1980年に監督デビューをしたホウ・シャオシェン監督第二作。『ステキな彼女』(80)『川の流れに草は青々』(82)と本作の初期3作品は、台湾・香港のアイドルを起用し、それまでの台湾映画の作風を継承しつつ、台湾ニューシネマへの片鱗も覗かせる。1980年代初頭の、戒厳令下の社会を背景に女性の心理を鮮やかに描いた、見逃せない初期の一作。

監督・脚本：ホウ・シャオシェン
出演：フォン・フェイフェイ／ケニー・ビー／アンソニー・チェン
（1981／台湾／1h32）

フラワーズ・オブ・シャンハイ

海上花 Flowers of Shanghai

〈4Kデジタルリマスター版〉
高級遊郭を舞台に豪華スター共演で贈る、官能的影像世界

ホウ・シャオシェン監督が初めて挑んだ時代劇。19世紀末の清朝末期、上海のイギリス租界の高級遊郭を舞台に男たちと娼婦たちの愛の葛藤を描きだす。郷愁の田園風景や現代の台湾を舞台にしたロケ撮影が特徴でもあったホウ作品とは異なり、屋内での撮影、長編小説の映画化、上海語のセリフ、そしてトニー・レオン、羽田美智子、ミシェル・リーにカリーナ・ラウ など 大スターの起用という、それまでの作風から新たな地平へと踏み入った華麗な傑作。

監督：ホウ・シャオシェン　脚本：チュー・ティエンウェン　撮影：リー・ピンビン／チェン・カアイエン
出演：トニー・レオン／羽田美智子／ミシェル・リー／カリーナ・ラウ／ジャック・カオ
（1998／日本・台湾／2h01）

HHH：侯孝賢

HHH：A Portrait of Hou Hsiao-Hsien

〈デジタルリマスター版〉
オリヴィエ・アサイヤス監督がホウシャオシェンの素顔に迫る！

批評家時代から台湾ニューシネマを積極的に世界に紹介し、監督デビュー後もホウ・シャオシェンからの影響を公言して憚らない、フランスを代表する映画監督の一人オリヴィエ・アサイヤスが、ホウ監督とともに台湾を旅しながら、彼の素顔に迫った貴重なドキュメント。当時「フラワーズ・オブ・シャンハイ」の脚本執筆中だった チュー・ティエンウェン、ウー・ニェンチェンほか、ホウ監督と共に台湾ニューシネマをけん引してきた映画人たちのインタビューを交え、作品にゆかりのある凱山、九份、金瓜石、平渓、台北をめぐる。

監督：オリヴィエ・アサイヤス　撮影：エリック・ゴーティエ　編集：マリー・ルクール
出演：ホウ・シャオシェン／チュー・ティエンウェン／ウー・ニェンウェン／チェン・ダオフー／ドゥー・ドゥージー
（1997／フランス・台湾／1h32）

ホウ・シャオシェン
Hou Hsiao Hsien 侯孝賢

■ プロフィール

1947年中国、広東省梅県生まれ。72年国立芸術学院映画・演劇科卒業。80年『ステキな彼女』で監督デビュー。83年若手監督3人によるオムニバス映画『坊やの人形』を発表する。同年の『風櫃の少年』と翌年の『冬冬の夏休み』で、ナント三大陸映画祭グランプリを2年連続受賞。続く『童年往事　時の流れ』(85)がベルリン国際映画祭で国際批評家連盟賞を獲得し、エドワード・ヤン(楊徳昌)などと並び、1980年代台湾映画界の新潮流である台湾ニューシネマ(新電影)を担った代表的な監督。

89年、終戦直後の基隆・九份を舞台に二・二八事件を取り扱った『悲情城市』でヴェネチア国際映画祭金獅子賞(グランプリ)を受賞、内外から注目を受けた。『悲情城市』発表当時の台湾は、87年の戒厳令解除からまだ間もない頃であり、二・二八事件そのものをタブー視する雰囲気も強かった。このため作品の発表自体が危ぶまれたものの、検閲を無事通過してノーカットで公開され、台湾社会で大きな反響を呼び、89年の台湾金馬奨最優秀監督賞・最優秀主演男優賞も受賞している。興行的にも従来外国映画に押されて低迷していた台湾映画の中では異例の大ヒットとなった。

93年には『戯夢人生』で、カンヌ国際映画祭審査員賞を受賞。95年には『好男好女』で台湾金馬奨最優秀監督賞を受賞。ホウ・シャオシェンは小津安二郎への敬愛から、2003年には小津の生誕100年を記念した作品である『珈琲時光』(一青窈・浅野忠信主演)を製作している。ただし、小津の映画を観たのは映画監督になってかなり後のことと語っている。また、フランスのアルベール・ラモリス監督『赤い風船』(56)へのオマージュとして、2007年に『ホウ・シャオシェンのレッド・バルーン』を発表した。

そして2015年、完成までに5年の歳月を費やした『黒衣の刺客』を発表、第68回カンヌ国際映画祭監督賞受賞、台湾金馬奨では最優秀作品賞・最優秀監督賞はじめ5部門で受賞、その他アメリカ、アジアで絶大な評価を受けた。近年は若手監督のプロデュースに力を入れ、『台北暮色』(17)などの製作総指揮 を手掛けている。

台湾映画祭2021 in フォーラム仙台　～ホウ・シャオシェン作品を中心とした名作特集～

坊やの人形

兒子的大玩偶 The Sandwich Man

監督：ホウ・シャオシェン／ソン・ツアンシャン／ワン・レン
原作：ホワン・チュンミン　脚本：ウー・ニェンウェン
出演：チャン・ボージョン／ヤン・リーイン
（1983／台湾／1h48）

60年代前半の台湾を舞台に必死に生活を送る人々の姿を描く。『坊やの人形』『シャオチの帽子』『りんごの味』の三部作で構成されている。監督は『坊やの人形』がホウ・シャオシェン、『シャオチの帽子』がソン・ジュアンシャン、『りんごの味』がワン・レン。台湾ニューシネマの誕生を告げた記念作。

©Central Motion Picture Corp.

軍中楽園

軍中樂園 Paradise in Service

★第51回金馬奨最優秀助演男優賞・最優秀助演女優賞
★台北映画祭最優秀美術賞

監督・脚本：ニウ・チェンザー　編集協力：ホウ・シャオシェン
出演：イー・サン・ルアン／レジーナ・ワン／チェン・ジョンビン／チェン・イーハン
（2014／台湾／2h13）

1969年台湾、金門島。国共内戦の最前線に送られた台湾兵士のバオタイは、カナづチが露呈し、エリート部隊から「軍中楽園」と呼ばれる特約茶室を管理する部隊に転属させられてしまう…。実在の慰安施設を舞台に、戦争に翻弄されながらも生きる、歴史から葬られた若者たちの異色の青春映画。

©2014 Forte Production Huan Endless Media Ltd. Chun M.E.G. Inc. Entertainment Co., Ltd. | Asia Pictures Co. Ltd. | Play Inc. Video Art Co., Ltd. All Rights Reserved

風櫃（フンクイ）の少年

風櫃來的人 All the Youthful Days

★第6回ナント三大陸映画祭グランプリ
★1985年アジア太平洋映画祭最優秀監督賞

監督：ホウ・シャオシェン
原案・脚本：チュー・ティエンウェン
撮影：チェン・カンカウ
出演：ニウ・チェンザー／チャン・シー／リャオ・パンジュ／ワ・チョンファ／ヤン・チャンタオ
（1983／台湾／1h41）

台湾の西、澎湖島の風櫃で無聊の日々を送る少年達は大都市・高雄を夢見ているが…、大陸からの移民で、高雄に住んでいたホウ・シャオシェンの自伝的要素が詰まっており、多くの映画人が影響を受けた作品として挙げる傑作青春映画。『軍中楽園』の監督ニウ・チェンザーが主人公のアチンを演じている。

©Central Motion Picture Corp.

バナナパラダイス（デジタルリマスター版）

香蕉天堂 Banana Paradise

★第26回金馬奨 最優秀助演男優賞受賞

監督：ワン・トン　脚本：ワン・シャオティー／ソン・ホン
出演：ニウ・チェンザー／チャン・シー／ソン・チンユー
（1989／台湾／2h28）

1949年。中国大陸から台湾に渡った男の半生を綴る、台湾ニューシネマの名匠ワン・トン監督の「台湾近代史三部作」の1本で、日本での唯一の劇場公開作。名を変え、身分を偽り、他人の人生を必死に生きる男をニウ・チェンザー（「風櫃の少年」「軍中楽園」）が好演、戦後台湾史を軽妙に描いた傑作！

冬冬（トントン）の夏休み（デジタルリマスター版）

冬冬的假期 A Summer of Grandpa's

★第7回ナント三大陸映画祭グランプリ
★第30回アジア太平洋映画祭最優秀監督賞

監督・脚本：ホウ・シャオシェン
原作・脚本：チュー・ティエンウェン
撮影：チェン・カンカウ　音楽：エドワード・ヤン／トゥー・トゥーチー
出演：ワン・チークン／リー・ジェジェン／ダー・ジェン／メイ・ファン／エドワード・ヤン
（1984／台湾／1h38）

母が病気になり、祖父母の住む田舎でひと夏を過ごすことになった都会育ちの幼い兄妹トントンとティンティンを通じて、人との出会い、自然の美しさや友情を描く、ずっと見ていたい珠玉の名作。ホウ・シャオシェンの盟友エドワード・ヤンが特別出演している。上映機切れのため今回が日本最後上映！

©A MARBLE ROAD PRODUCTION, 1984 Taiwan

台北ストーリー（デジタルリマスター版）

青梅竹馬 Taipei Story

★第38回ロカルノ国際映画祭審査員特別賞

監督：エドワード・ヤン　製作：ホウ・シャオシェン
脚本：チュー・ティエンウェン／ホウ・シャオシェン／エドワード・ヤン
音楽：ヨー・ヨーマ　撮影：ヤン・ウェイハン
出演：ホウ・シャオシェン／ツァイ・チン／ウー・ニェンチェン／ク・イーチェン
（1985／台湾／1h59）

80年代半ば、過去に囚われた男と未来に想いを馳せる女のすれ違いが、変わりゆく台北の街並みに重ねられ、やがて思いもよらない結末を呼び込む。エドワード・ヤン監督、ホウ・シャオシェン主演…台湾ニューシネマの若き才能たちが総 結集 した、奇跡の作品。

©Cinetourism. All Rights Reserved

童年往事（どうねんおうじ）時の流れ（デジタルリマスター版）

童年往事 A Time to Live and a Time to Die

★第22回金馬奨 最優秀助演女優賞・最優秀脚本賞
★第36回ベルリン国際映画祭 国際批評家連盟賞

監督・脚本：ホウ・シャオシェン
脚本：チュー・ティエンウェン
撮影：リー・ピンビン
出演：ニー・アンシュン／ツン・シュークン／ティエン・ファン／メイ・ファン／リー・ティンシー
（1985／台湾／2h18）

少年の成長の年代記を、彼と家族の日常を巡るさやかな出来事で綴る。1947年に広東省で生まれ、1歳のときに一家で台湾に移住したアハはガキ大将的存在だったが、病弱な父に気を遣っていて…、ベルリン国際映画祭という世界三大映画祭で注目を集めるきっかけとなった、記念碑的名作。

©Central Motion Picture Corp.

日常対話

日常對話 Small Talk

監督・撮影：ホアン・アイチェン
製作総指揮：ホウ・シャオシェン
（2016／台湾／1h28）

娘よりも恋人を大事にする同性愛者の母親への不信感から、他人のように暮らす母娘。ある日、カメラを向けて母親と対峙すると、元夫のDV、貧困、虐待、マイノリティへの偏見など社会問題が見えてきて…。プロデューサーのホウ・シャオシェンは一切、口出しをしなかったという、入魂のドキュメンタリー。

©Wu Kuo-Hsiang | 吳國祥 All Rights Reserved